

ネットワークおよび インターネット通信ガイド

Business PC



© Copyright 2006 Hewlett-Packard
Development Company, L.P. 本書の内容
は、将来予告なしに変更されることがあり
ます。

Microsoft、Windows、および Windows NT
は、米国 Microsoft Corporation の米国およ
びその他の国における登録商標です。

HP 製品およびサービスに対する保証は、当
該製品およびサービスに付属の保証規定に
明示的に記載されているものに限られま
す。本書のいかなる内容も、当該保証に新
たに保証を追加するものではありません。
本書に記載されている製品情報は、日本国
内で販売されていないものも含まれてい
る場合があります。本書の内容につきましては
は万全を期しておりますが、本書の技術的
あるいは校正上の誤り、省略に対して責任
を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有
権に関する情報が掲載されています。本書
のいかなる部分も、Hewlett-Packard
Company の書面による承諾なしに複写、複
製、あるいは他言語へ翻訳することはでき
ません。

ネットワークおよびインターネット通信ガ イド

Business PC

初版 2006 年 8 月

製品番号 : 418628-291

このガイドについて

このガイドでは、一部のモデルにプリインストールされているネットワーク インタフェース コントローラ (NIC) 機能の概念および使用手順について説明します。また、インターネット サービス プロバイダに関する情報およびインターネットの接続に関する問題の解決方法についても説明します。



警告! その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こすおそれがあるという警告事項を表します。



注意 その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。



注記 重要な補足情報です。

目次

1 ネットワーク通信

| | |
|---------------------------------------|---|
| イーサネット ネットワーク構造 | 2 |
| NIC 警告メッセージ | 2 |
| Wake-On-LAN (WOL) 機能 | 3 |
| ネットワーク ステータス ランプの動作 | 4 |
| 802.3u/802.3ab オートネゴシエーション機能の停止 | 4 |
| ネットワーク ドライバのインストール | 5 |
| 無線ネットワーク | 7 |
| アドホック ネットワーク | 7 |
| アクセス ポイント (インフラストラクチャ) ネットワーク | 7 |
| 無線ネットワークの利点 | 8 |

2 インターネット通信

| | |
|---------------------------------|----|
| インターネット サービス プロバイダの選択 | 9 |
| コンテンツ アドバイザ | 10 |
| インターネット コンテンツの規制 | 10 |
| インターネット アクセスに関するトラブルの解決方法 | 12 |

1 ネットワーク通信

この章では、以下の項目について説明します。

- イーサネット ネットワーク構造
- ネットワーク インタフェース コントローラ (NIC) 警告メッセージ
- Wake-On-LAN (WOL) 機能
- ネットワーク ステータス ランプの動作
- 802.3u オートネゴシエーション機能の停止
- ネットワーク ドライバのインストール
- 無線ネットワーク

この章ではイーサネット ネットワークについて説明します。また、イーサネット ネットワークにアクセスするためのハードウェア コネクタやソフトウェア デバイス ドライバについても説明します。コンピュータ ネットワークにアクセスすると、直ちに生産性の向上を図ることができます。ネットワーク接続をアクティブにすると、プリンタなどのリソースを共有したり、コンピュータ同士で情報を交換したり、共通のソフトウェア プログラムを実行したりできるようになります。

お使いのコンピュータのハードディスク ドライブには、統合型ネットワーク コントローラおよびネットワーク デバイス ドライバがすでにロードされているため、工場出荷時にネットワークに対応できる状態になっています。このため、お使いのコンピュータからすぐにネットワークに接続できます。

イーサネット ネットワーク構造

すべてのイーサネット ネットワークには、次の要素のどれかの組み合わせが含まれます。

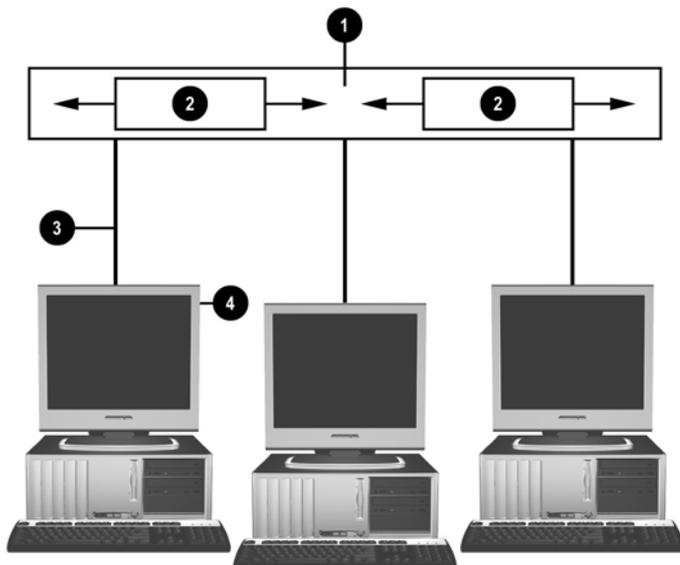


図 1-1 イーサネット ネットワーク構造

| | |
|-----------------|---------------|
| (1) イーサネット ケーブル | (3) 引き込みケーブル |
| (2) 情報パケット | (4) ワークステーション |

ネットワーク コネクタの種類については、Documentation and Diagnostics CD（ドキュメンテーションおよび診断ユーティリティ CD）に収録されている『ハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。

NIC 警告メッセージ

一部の NIC には警告メッセージの機能が備わっているため、システム管理者はネットワークに接続されたコンピュータをリモートで監視することができます。ハードウェアおよびオペレーティング システムに関する警告メッセージは、オペレーティング システムをロードする前、オペレーティング システムをロードしているとき、コンピュータが低電力消費モードのとき、および電源を切るときに、ネットワーク経由で送信できます。NIC のモデルによって異なりますが、次の警告メッセージをそれぞれの状態のときに監視できます。

- システム BIOS の停止：動作時
- オペレーティング システムの停止：動作時
- プロセッサが見つからない：電源投入時
- 動作温度が許容値を超えた：動作時
- シャーシの異常：電源投入時または動作時（システムを実行中の場合）
- ウォッチドッグ：動作時（オペレーティング システムの停止と同じ）
- ハートビート監視：常時



注記 警告メッセージの機能が備わっている NIC は、ASF (Alert Standard Format) 2.0 の仕様に準拠しており、RMCP (Remote Management and Control Protocol) 警告メッセージをサポートしています。ASF 1.0 の仕様はセキュリティ機能が不十分なため、この仕様に準拠している NIC では RMCP 警告メッセージがサポートされません。NIC 警告メッセージは、お使いの NIC に対応した ASF 2.0 エージェントをインストールすると有効になり、構成されます。ASF 2.0 エージェントは、<http://www.hp.com/jp> から入手できます。ASF 警告メッセージは、CIM (Common Information Model) を使用して有効にし、構成することもできます。

Wake-On-LAN (WOL) 機能

電源がオフの状態での Wake-On-LAN 機能を有効/無効に設定するには、以下の手順で操作します。

1. POST (Power-on Self Test) 実行中に F10 キーを押して、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを実行します。
2. [カスタム] (Advanced) メニューで、[デバイス オプション] (Device Options) → [S5 ウェイク オン LAN] (S5 Wake on LAN) の順に選択します。
3. コンピュータの電源がオフのときに Wake-On-LAN の起動を禁止する場合は[無効] (Disable) を、電源がオフの状態での Wake-On-LAN の起動を許可する場合は[有効] (Enable) を選択します。



注記 [S5 ウェイク オン LAN] (S5 Wake on LAN) の初期設定は[有効] (Enable) です。

低電力消費モードのときに Wake-On-LAN 機能を有効/無効に設定するには、以下の手順で操作します。

Windows XP の場合 :

1. [スタート]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [ネットワーク接続]をダブルクリックします。
3. [ローカル エリア接続]をダブルクリックします。
4. [プロパティ]をクリックします。
5. [構成]をクリックします。
6. [電源の管理]タブをクリックし、[このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする]チェック ボックスにチェックを入れるか外します。

Windows 2000 の場合 :

1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックします。
3. [ローカル エリア接続]を右クリックします。
4. [プロパティ]をクリックします。
5. [構成]をクリックします。
6. [電源の管理]タブをクリックし、[このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする]チェック ボックスにチェックを入れるか外します。



注記 Wake-On-LAN 機能について詳しくは、『リモート マネージメント管理者ガイド』を参照してください。『リモート マネージメント管理者ガイド』はリモート マネジメント セットアップ ユーティリティに含まれており、<http://www.hp.com/jp/>からダウンロードできます。

ネットワーク ステータス ランプの動作

一部のイーサネット ネットワーク インタフェース コントローラには、次のネットワーク ステータス ランプがあります。

- LNK (Link) ランプは、アクティブなネットワークにシステムが物理的に接続しているときに点灯します。
- ACT (Activity) ランプは、コンピュータがネットワーク通信を検出したときに点滅します。頻繁に通信しているネットワークに接続している場合は、ほぼ点灯したままの状態が続きます。
- 動作速度 (Operating Speed) ランプは、1000 Mbps 回線または 100 Mbps 回線が動作している場合に点灯します。ランプの色は動作速度を示します。

NIC の種類によっては、ネットワーク ステータス ランプが 2 つしかないことがあります。この場合は、ネットワークが接続している状態 (点灯) とネットワークが通信中の状態 (点滅) を 1 つのランプで示します。もう 1 つのランプは、1000 Mbps 回線または 100 Mbps 回線が動作している場合に点灯します。統合型 NIC では、NIC コネクタに次の 2 つのネットワーク ステータス ランプがあります。

- LNK (Link) /ACT (Activity) ランプ : ネットワークに物理的に接続しているときは緑色に点灯し、ネットワーク通信は点滅で示します。
- 動作速度 (Operating Speed) ランプ : 1000 Mbps 回線が動作しているときは緑色、100 Mbps 回線が動作しているときは黄色に点灯し、10 Mbps 回線が動作しているときは消灯します。

802.3u/802.3ab オートネゴシエーション機能の停止

NIC のオートネゴシエーション機能は、接続されているネットワークの最高データ転送速度と二重通信機能を自動的に検出して、最も一般的な組み合わせでコンピュータの設定を調節する機能です。コンピュータは、ネットワーク回線が正しく接続されるたび、また NIC ドライバがロードされたときに、オートネゴシエーションを開始します。

また、データ転送速度の検出の他に、コンピュータは全二重通信がサポートされているかどうかも検出します。全二重通信では、データの送受信を同時に行うことができますが、半二重通信では、データの送受信を同時には行えません。



注記 リンク パートナ ポートの設定は、NIC の設定と一致している必要があります。NIC でオートネゴシエーション機能が設定されている場合、リンク パートナでもオートネゴシエーション機能を設定する必要があります。NIC で特定の速度や二重通信が設定されている場合、スイッチ ポートでも同じ速度や二重通信を設定する必要があります。

必要に応じて、オートネゴシエーション機能を停止させ、特定の通信モードに設定することもできます。通信モードを設定するには、次の手順で操作します。

Windows XP の場合 :

1. [スタート]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [ネットワーク接続]をダブルクリックします。

3. [ローカル エリア接続]をダブルクリックします。
4. [プロパティ]をクリックします。
5. [構成]をクリックします。
6. [詳細設定]タブをクリックします。
7. [プロパティ]一覧から[Link Speed & Duplex]を選択します。
8. [値]ドロップダウン リストから適切な設定を選択し、お使いのネットワーク環境に合わせて変更します。
9. 設定を有効にするために、[OK]をクリックして コンピュータを再起動します。

Windows 2000 の場合 :

1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックします。
3. [ローカル エリア接続]を右クリックします。
4. [プロパティ]をクリックします。
5. [構成]をクリックします。
6. [詳細設定]タブをクリックします。
7. [プロパティ]一覧から[Link Speed & Duplex]を選択します。
8. [値]ドロップダウン リストから適切な設定を選択し、お使いのネットワーク環境に合わせて変更します。
9. 設定を有効にするために、[OK]をクリックして コンピュータを再起動します。

詳しくは、ネットワーク コントローラに付属のマニュアルを参照してください。



注記 100BaseTX 通信および 1000BaseT 通信には、カテゴリ 5 以降（カテゴリ 5、カテゴリ 5a、カテゴリ 6）の UTP ケーブル（LAN ケーブル）が必要です。

ネットワーク ドライバのインストール

ネットワーク コントローラのデバイス ドライバを使用すると、実行中のオペレーティング システムにドライバが正常にロードされ、ネットワーク通信が利用できるようになります。



注記 コンピュータには、Windows XP 用のデバイス ドライバが含まれています。その他のオペレーティング システムを使用する場合は、オペレーティング システムに付属のメディアまたは HP から入手できるデバイス ドライバ ファイルから必要なドライバをインストールしてください。オペレーティング システムの再インストールが必要な場合は、Restore Plus! CD をお使いください。

以下の手順に従って、お使いのオペレーティング システムに対応する正しいデバイス ドライバをインストールします。

Windows XP の場合 :

1. [スタート]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [ネットワーク接続]をダブルクリックします。
3. [新しい接続を作成する]をクリックし、画面の説明に沿って操作します。

Windows 2000 の場合 :

1. Windows 2000 のオペレーティング システム CD には、デバイス ドライバが含まれていません。
2. <http://www.hp.com/jp/>からドライバをダウンロードしてから、画面の説明に沿ってインストールしてください。

無線ネットワーク

無線 LAN では、ケーブルで接続されたネットワークと同じ機能が提供されますが、ネットワーク用のケーブルやその他のネットワーク機器が不要になるため、設置が簡単です。

無線 LAN は、2つの異なる動作モードのどちらかにコンフィギュレーションできます。それぞれのモードには他方ない長所があるので、ニーズにより適している方を選択してください。以下のコンフィギュレーション情報を検討して、どちらのモードがより適しているかを決定してください。

- アドホック ネットワーク
- アクセス ポイント（インフラストラクチャ）ネットワーク

アドホック ネットワーク

アドホック ネットワークは設置が最も簡単であり、小規模のオフィスに最適です。アドホック無線ネットワークは、互いに通信するようにコンフィギュレーションした複数の無線クライアントで構成できます。すべてのアドホック クライアントが、アクセス ポイント（AP）を使用しないで、互いに直接通信できます。この種類のネットワークのユーザは、短時間で無線ネットワークを構築することで他のユーザとファイルを共有し、共有のオフィス プリンタでプリントし、単一の共有の接続を経由してインターネットを利用することができます。

アドホック ネットワークでは、ネットワークのセットアップに他のデバイスのコンポーネント（アクセス ポイント、ハブ、ルータなど）が不要なため、コスト面で効率的です。ただし、アドホック ネットワークでは、近くの無線クライアントとしか通信できません。

アクセス ポイント（インフラストラクチャ）ネットワーク

アクセス ポイント ネットワークは「インフラストラクチャ」ネットワークとも呼ばれます。無線アクセス ポイント ネットワークがアドホック ネットワークと大きく異なる点は、アクセス ポイントという特別な要素が追加されるということです。アクセス ポイントは、無線ネットワーク上のすべてのデータ トラフィックの中心拠点としての役割を持ち、すべての無線データ トランザクションを適切に管理します。

アクセス ポイントによって、無線 LAN の範囲が拡大されます。各無線クライアント コンピュータは、アクセス ポイントの範囲内にある無線デバイスを備えた他のコンピュータと通信できます。

さらに、無線インフラストラクチャでは、既存の有線 LAN にもアクセスできます。この機能によって、インフラストラクチャ無線 LAN 上のコンピュータは、他の有線 LAN のリソースとツールにアクセスできるようになります。これには、インターネットへのアクセス、電子メールの配信、ファイル転送、プリンタの共有などが含まれます。HP では、無線 LAN を有線 LAN に接続するために必要な設置サービスをすべてご提供できます。

無線ネットワークに接続するコンピュータの他に、次の 2 種類の機器があれば、アクセス ポイントを使用して無線ネットワークを構築できます。

- **アクセス ポイント**：圏内のすべてのユーザを無線 LAN に接続する、無線信号の発信機。アクセス ポイントは、必要に応じて何台でもネットワーク上に設置でき、ネットワークの拡大に応じて簡単に追加できるため、1 つの無線 LAN でオフィス全体をカバーできます。各アクセス ポイントには、次の 2 つのものが重要です。
 - 電源供給用の標準のコンセント
 - 既存の有線 LAN 用のイーサネット接続またはインターネットの接続
- **無線 LAN カード**：コンピュータが無線ネットワークと通信するための、ネットワーク インタフェース カード（NIC）に相当するカード。多くの HP 製コンピュータには無線 LAN カードが内

蔵されているため、購入後すぐに無線ネットワークに接続できます。お使いのコンピュータに無線 LAN カードが内蔵されていない場合は、簡単に取り付けることができます。取り付ける方法については、Documentation and Diagnostics CD に収録されている『ハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。

無線ネットワークの利点

無線ローカル エリア ネットワーク（無線 LAN）により、ビジネスの環境がより柔軟で快適になります。無線ネットワークの利点には、次のものが含まれます。

- 職場に面倒で費用の高い配線を行う必要がありません。
- 職場全体を追加したり移動したりする際、ネットワークの切断時間を最低限に抑えられます。
- ネットワーク コネクタの位置を気にしないで、職場の配置替えを行うことができます。
- 無線 LAN の導入は通常、有線ネットワークより速く行うことができ、コスト面でも効率的です。
- 無線 LAN へのコンピュータの追加を、すばやく、最低限のコストで行うことができます。
- 無線 LAN 導入後の維持や管理は、有線ネットワークより簡単です。
- 無線 LAN により、オフィスやキャンパス内であれば時間や場所を問わずに、リアルタイムのビジネス情報にアクセスできるようになります。

無線ネットワークについて詳しくは、<http://www.hp.com/jp/>を参照するか、HP のサポート窓口にお問い合わせください。

2 インターネット通信

この章では、以下の項目について説明します。

- インターネット サービス プロバイダの選択
- コンテンツ アドバイザ
- インターネット アクセスに関するトラブルの解決方法

インターネット サービス プロバイダの選択

インターネット サービス プロバイダ (ISP) は、インターネットへの接続に必要な、ダイヤルアップ、ケーブル、DSL、または無線を利用したアクセスおよびソフトウェアを提供します。ほとんどのプロバイダはこの他にも、電子メール、ニュースグループへのアクセス、ホームページを作成するスペース、および技術的なサポートを提供しています。インターネット上で仕事をしたい個人や企業向けに、ドメインホスティングなどの商業サービスを提供するプロバイダもあります。お近くのプロバイダや全国展開しているプロバイダから選択できます。

MSN やアメリカ オンライン (AOL) のようなオンライン サービス プロバイダは、インターネット接続サービスの他に、特徴のあるサービス、コンテンツ、および技術サポートを提供しています。オンライン サービス プロバイダには、カテゴリ分けされ、カスタマイズ可能なホームページが用意されているので、インターネット上の有名なサイトや役に立つサイトを簡単に見つけられます。

次の方法で、自分に合ったプロバイダを探します。

- 電話帳で探す
- 友人や同僚の意見を聞く
- すでにインターネットに接続している場合は、Google のような検索エンジンを使って、ISP やオンライン サービス プロバイダを探す
- ほとんどの ISP では、さまざまなサービス プランを用意して、ユーザの多様なニーズに対応しています。プロバイダの提供するサービスや価格などを比較検討して、ご自身に合ったプロバイダを探してください。

コンテンツ アドバイザ

インターネットを使用するとさまざまな情報にアクセスできますが、すべてのユーザには適していない情報もあります。

コンテンツ アドバイザを使用して、以下の設定を行うことができます。

- インターネットへのアクセスを規制する
- パスワードを設定する
- コンピュータのユーザーが見ることができない Web サイトの一覧を設定する
- コンピュータのユーザーがユーザの許可を得てまたは得ずに見ることができるコンテンツの種類を調節する

インターネット コンテンツの規制

Windows XP の場合：

以前にコンテンツ アドバイザを有効に設定していない場合は、以下の手順で操作します。

1. **[スタート]**→**[コントロール パネル]**の順に選択します。
2. **[インターネット オプション]**をダブルクリックします。
3. **[コンテンツ]**タブをクリックします。
4. **[コンテンツ アドバイザ]**領域で、**[有効にする]**ボタンをクリックします。以前にインターネット設定のパスワードを作成してある場合は、そのパスワードを入力する画面が表示されます。
5. 一覧からカテゴリを選択してスライダをドラッグし、使用する制限を設定します。制限するカテゴリごとにこの手順を繰り返します。
6. **[OK]**をクリックして、**[パスワード]**ボックスにパスワードを入力します。コンテンツ アドバイザが有効に設定されたことを知らせるダイアログ ボックスが表示されたら、**[OK]**をクリックします。

以前にコンテンツ アドバイザを有効に設定してある場合は、以下の手順で操作します。

1. **[スタート]**→**[コントロール パネル]**の順に選択します。
2. **[インターネット オプション]**をダブルクリックします。
3. **[コンテンツ]**タブをクリックします。
4. 設定を変更するには、以下の手順で操作します。
 - a. **[設定]**ボタンをクリックし、パスワードを入力して**[OK]**をクリックします。
 - b. 一覧からカテゴリを選択してスライダをドラッグし、使用する制限を設定します。制限するカテゴリごとにこの手順を繰り返します。
5. コンテンツ アドバイザを無効に設定するには、以下の手順で操作します。
 - a. **[無効にする]**ボタンをクリックし、パスワードを入力して**[OK]**をクリックします。
 - b. コンテンツ アドバイザが無効に設定されたことを知らせるダイアログ ボックスが表示されたら、**[OK]**をクリックします。

Windows 2000 の場合 :

以前にコンテンツ アドバイザを有効に設定していない場合は、以下の手順で操作します。

1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [インターネット オプション]をダブルクリックします。
3. [コンテンツ]タブをクリックします。
4. [コンテンツ アドバイザ]領域で、[有効にする]ボタンをクリックします。
5. 一覧からカテゴリを選択してスライダをドラッグし、使用する制限を設定します。制限するカテゴリごとにこの手順を繰り返します。
6. [OK]をクリックして、[パスワード]ボックスにパスワードを入力します。コンテンツ アドバイザが有効に設定されたことを知らせるダイアログ ボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

以前にコンテンツ アドバイザを有効に設定してある場合は、以下の手順で操作します。

1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します。
2. [インターネット オプション]をダブルクリックします。
3. [コンテンツ]タブをクリックします。
4. 設定を変更するには、以下の手順で操作します。
 - a. [設定]ボタンをクリックし、パスワードを入力して[OK]をクリックします。
 - b. 一覧からカテゴリを選択してスライダをドラッグし、使用する制限を設定します。制限するカテゴリごとにこの手順を繰り返します。
5. コンテンツ アドバイザを無効に設定するには、以下の手順で操作します。
 - a. [無効にする]ボタンをクリックし、パスワードを入力して[OK]をクリックします。
 - b. コンテンツ アドバイザが無効に設定されたことを知らせるダイアログ ボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

インターネット アクセスに関するトラブルの解決方法

インターネット アクセスに関するトラブルが発生した場合は、ISP に問い合わせるか、または以下の解決方法を参照してください。

表 2-1 インターネット アクセスに関するトラブルの解決方法

インターネットに接続できない

| 原因 | 解決方法 |
|--|--|
| インターネット サービス プロバイダ (ISP) のアカウントが正しく設定されていない | インターネットの設定を確認するか、ISP に問い合わせます |
| モデムが正しくセットアップされていない | モデムを接続しなおします。クイック セットアップに関するマニュアルを参照して、正しく接続されているか確認します |
| Web ブラウザが正しくセットアップされていない | Web ブラウザがインストールされており、ISP へのセットアップが完了していることを確認します |
| ケーブル/DSL モデムが接続されていない | ケーブル/DSL モデムを接続します。ケーブル/DSL モデムの前面の電源ランプが点灯します |
| ケーブル/DSL サービスが使用できない、または悪天候のため中断している | 後でインターネットに接続しなおすか、ISP に問い合わせます (ケーブル/DSL サービスに接続すると、ケーブル/DSL モデムの前面のケーブル ランプが点灯します) |
| CAT5 UTP ケーブル (LAN ケーブル) が接続されていない | CAT5 UTP ケーブルで、ケーブル モデムをコンピュータの RJ-45 コネクタに接続します (正しく接続されると、ケーブル/DSL モデムの前面の PC ランプが点灯します) |
| IP アドレスが正しく構成されていない | ISP に正しい IP アドレスを問い合わせます |
| Cookie が壊れている (「Cookie」は Web サーバが Web ブラウザに一時的に格納する情報です。Web サーバが後で取得する特定の情報を Web ブラウザに記憶させるときに役立ちます) | Windows XP の場合 : <ol style="list-style-type: none">1. [スタート]→[コントロール パネル]の順に選択します2. [インターネット オプション]をダブルクリックします3. [全般]タブで、[Cookie の削除]ボタンをクリックします Windows 2000 の場合 : <ol style="list-style-type: none">1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します2. [インターネット オプション]をダブルクリックします3. [全般]タブで、[Cookie の削除]ボタンをクリックします |

インターネット プログラムを自動的に起動できない

| 原因 | 解決方法 |
|--------------------------------------|------------------------------|
| プログラムによっては、起動する前に ISP にログオンする必要があります | ISP にログオンしてから、目的のプログラムを起動します |

表 2-1 インターネット アクセスに関するトラブルの解決方法 (続き)

インターネットでの Web サイトのダウンロードに時間がかかる

| 原因 | 解決方法 |
|----------------------------|---|
| <p>モデムが正しくセットアップされていない</p> | <p>モデム速度および COM ポートが正しく選択されていることを確認します</p> <p>Windows XP の場合 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [スタート]→[コントロール パネル]の順に選択します 2. [システム]をダブルクリックします 3. [ハードウェア]タブをクリックします 4. [デバイス マネージャ]領域にある[デバイス マネージャ]ボタンをクリックします 5. [ポート (COM と LPT)]をダブルクリックします 6. モデムが使用している COM ポートを右クリックして、[プロパティ]をクリックします 7. [デバイスの状態]領域で、モデムが正しく動作していることを確認します 8. [デバイスの使用状況]領域で、モデムが有効に設定されていることを確認します 9. 他にも問題がある場合は、[トラブルシューティング]ボタンをクリックし、画面の説明に沿って操作します <p>Windows 2000 の場合 :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [スタート]→[設定]→[コントロール パネル]の順に選択します 2. [システム]をダブルクリックします 3. [ハードウェア]タブをクリックします 4. [デバイス マネージャ]領域にある[デバイス マネージャ]ボタンをクリックします 5. [ポート (COM と LPT)]をダブルクリックします 6. モデムが使用している COM ポートを右クリックして、[プロパティ]をクリックします 7. [デバイスの状態]領域で、モデムが正しく動作していることを確認します 8. [デバイスの使用状況]領域で、モデムが有効に設定されていることを確認します 9. 他にも問題がある場合は、[トラブルシューティング]ボタンをクリックし、画面の説明に沿って操作します |

